

令和6年度 第2回磐田市行政経営審議会 議事録

【日 時】 令和7年1月28日（火） 15時00分から17時00分まで

【出席者】 委員11名

秋元富敏 委員、井上佳子 委員、大島たまよ 委員、砂川利広 委員、田口敏行 委員、永井雅也 委員、
深田研典 委員、藤崎淳 委員、堀川知廣 委員、矢田央生 委員、山越弘晃 委員

事務局4名

政策推進課長、政策推進課課長補佐、政策推進課担当2名

- 1 開会
- 2 定足数の報告（委員総数14名中11名の出席により会議成立）
- 3 会長挨拶
- 4 議事
 - ・次期総合計画の策定に向けて
 - ・意見交換
- 5 連絡事項
 - ・令和5年度地方創生関連交付金の効果検証について（追加分）など
- 6 閉会

【議事】： 次期総合計画の策定に向けて

| 質問事項 | 回答 |
|---|---|
| <p>現行の第2次磐田市総合計画の作りについて、もう少し分かりやすく説明してほしい。</p> | <p>第2次磐田市総合計画は、平成 29 年度からの計画で、基本構想が 10 年間、基本計画が前期後期 5 年ずつの作りになっており、第2次総合計画の後期基本計画は令和4年度からスタートしている。</p> <p>基本構想では、「まちの将来像」や「まちづくりの基本理念」、「4つのまちづくりの柱」を定めている。</p> <p>後期基本計画では、基本構想は前期基本計画からそのまま継承しているが、草地球市長が令和3年4月に就任したこともあり、市長のマニフェストであった、「市民の安心の実感を高め、安心できるまち、人が集まる磐田市を目指す」という考えを取り入れるため、分野を横断して重点的に取り組む「5つの安心プロジェクト」を基本計画に組み込んだ。それにより、後期基本計画では、行政の施策を7つの分野別に区分した分野別計画、重点プロジェクトである「5つの安心プロジェクト」の推進によって、まちの将来像である「たくさんの元気と笑顔があふれるまち磐田～今までも、これからもずっと磐田～」の実現を目指していくという作りとなっている。</p> <p>ただ、市民や一般の方にとってみると、基本構想で「4つのまちづくりの柱」があり、基本計画でも「5つの安心プロジェクト」があることで、重点的に力を入れ取り組む部分がどこなのかと、非常に分かりにくくなっているところがあるので、次期計画では、そこらへんをなるべく簡単にスリム化することを検討していきたい。</p> |
| <p>策定における新たな3つの視点(案)については、計画のどこの部分に組み込むことを想定しているのか。</p> | <p>ウェルビーイングについては、基本構想の目指すべき姿の中に、幸せという言葉や、ウェルビーイングの視点を取り入れた文言が出てくる可能性があるかと思っていて、そこについてはまたいろいろ協議をし、積み重ねの中で決めていくべきかと考えている。人の幸せは、それぞれの置かれてる状況で異なるので、非常に難しいところもあるが、ウェルビーイングの視点を取り入れた総合計画を策定するにあたっては、各分野の中に、人の主観を捉えたようなそこを高めるような目標設定になる指標が盛り込まれるようになると想定している。</p> <p>共創については、計画全般的にいろんなところで色が出てくるものかと思っている。人口減少社会になって、働き手の皆さんもだんだん減っていくことがもう分かっているような中で、市役所のみならずいろんな皆さんと一緒にまちづくりをしていかなきゃいけないという理念は、1番上のところから下の施策に関して、至るところに出てくるかと思っている。</p> <p>最後にバックカastingは、現在は10年間の計画をつくって、10年後を目指した計画づくりをしてきたところだが、これからは、30年後10年後、5年後、今みたいな、もう少し先の姿を目指してまちづくりをしていきたいと思いますというところを掲げていこうと。目指す先をどこに設定するかということについては、今後協議をし、いろんな方から御意見をもらいながら検討していきたいと考えているが、そういった考え方を取り入れていきたいと考えている。</p> |

【意見交換】 テーマ： 各分野や所属団体での現状の課題や取組み～次期総合計画の策定に向けて～

| 委員 | 主な意見 |
|----|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ○高齢化により地域活動(自治会活動)の役員の成り手不足とか、活動の担い手不足が深刻 ○2040年、高齢者数がピークを迎えると言われているが、元気で活躍できる高齢者をいかに社会参画させる体制を整えるか ○地域間、世代間、それから住民同士の支え合い、助け合いとか「つながり」を大事にした活動が今後ますます重要に ○医療と介護と要生活支援。これらの重層的支援と、防災対策が今後、市民の安全安心を高めるためにも重要 ○高齢化、災害の激甚化の中でも『安心を確保できる磐田市』を目指したい |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ○「教育」では、不登校児童・生徒が増えている。支援の選択肢を増やすことも大事だが、その後どうやってその子たちに力をつけていくのか、考えていくことが重要 ○個別最適化に少しでも近づける教育体系へ⇒不登校の子たちもいれば、どんどん先を学びたい能力を持った子もいる・・・ ○磐田の教育は先進的な取り組みができていますが、それが市民に伝わっていない(もったいない) ○実施するにも、PRするにも「優先度」「メリハリ」をつけていかないといけない ○教育先進地と言われる戸田市は、ハード整備よりもソフト事業に力を入れ投資している ○小学生のうちから「プレゼン」できる訓練や能力開発ができるとうい ○「スポーツ」では、市民全体が「スポーツのまち」を感じられているか⇒まずは「体験すること」。そこから親しみや参加につながる ○各種競技の「協会」が高齢化⇒若い世代に参画してもらうことが必要 ○(教育・スポーツのみでなくすべてにおいて)力を持ったシニア世代の活用が必要 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援の現場において、保護者の価値観が変わってきていると感じる。今までは「親と親」、「親と支援員」など、人とつながることで安心感を得ていたが、「必要な情報を得る時だけつながりたい」に変化 ⇒色々な「つながり方を担保していく」ということが必要であり、それが「子育てのウェルビーイング」にもつながると思う。「子育てのウェルビーイング」を上げるためには何が必要かをしっかり考えたい ○不登校が増加傾向、低年齢化している傾向(小学校低学年、幼稚園世代の行き渋りも増)。また、学校卒業後、何かの”つまずき”で引きこもったり、社会から離脱したりする人が増加している ⇒どう支え、未来につなぐか「支援をつなぐシステム」が大切 ○自分の子どもが大人になった頃に、磐田市はどんなまちになっているのか？ どんな仕事に就いているのか？ ⇒先のことが想像しづらく、親も子も未来・将来像がうまく描けないため、市民に未来の姿を伝えられる計画になればいいと思う |

| 委員 | 委員意見 |
|----|--|
| 委員 | <p>○どれだけ先を見て将来像を描いていくかについては、私がかかわっている環境系の市民団体は「100年後」を見据えている ⇒100年後、子を超えて孫たちに「こういう社会を残したい」というイメージで大きな計画を作り、それを実現するために30年後こういうことが実現するといいなという社会を具体的に描いていけたらいいのかなと思う</p> <p>○HPI(世界幸福度指数)の幸福度で世界No.1なのが「バヌアツ」という国 ⇒この国の人々の暮らし方に幸せの秘訣、本当の幸せの考え方があると思う</p> <p>○少子高齢化社会が問題にはなるが、それにどう向き合い、どう先進的な取組をしていくか？今がチャンスではないかとも思う</p> |
| 委員 | <p>○農家の息子だから、農家を継ぐという時代ではなく、他産業から農業を見て入ってきた人たちが今の農業を引っ張っている ⇒農業に新たに参入する障壁を取り除くことが、今の農業界の課題</p> <p>○「飼料」や「種」はほとんど輸入頼み。自給率という点では自立している農業ではないと感じる</p> <p>○他産業と農業の循環もうまくつুক্তいきたい</p> <p>○「食」と「健康」をうまく結びつけられないか</p> <p>○子どもたちや高齢者に「地産地消」でよい効果をもたらしたい</p> <p>○高齢者の知恵を若い世代が取り込み活用していく社会 同居(3世代)の促進も必要</p> |
| 委員 | <p>○現在の総合計画の中に「デジタル」の視点が薄いのが残念(総合戦略には昨年新たに盛り込まれているようだが…)</p> <p>○効率化、DX、行政改革という点と、まちづくりにデジタルをどう生かすのか、この二つの柱でDXを取り入れた計画へ</p> <p>○優しさや、歴史の良さ、そういったものは大事にしながらも、デジタルの活用を含め『近未来的な魅力』をどう表現していくかが大切</p> <p>○総合計画において、政策の絞り込み、優先順位の明確化が必要ではないか？ ⇒ まず、トップ(市長)の考え方をしっかりと吸い取ること ⇒ その上で行っていくべき具体施策を並べてみる ⇒ その中でどこに、磐田市らしさがあるのか？ その絞り込みをしていくことが、良いステップになるのではと思う</p> |
| 委員 | <p>○袋井市は現在(磐田市よりも1年早く)総合計画の策定作業が進んでおり、委員の会議を「ワークショップ形式」で行っている</p> <p>○市の強み、弱みを明らかにし、それを基に、各分野これからどうする、こうしていこうかというようなやり方をしている</p> <p>○バックカスティングの視点はいいと思う。あるべき姿をしっかりと示すことは大事</p> <p>○どうしたら市民が「幸せ！」と感じられるかを考え、それを各分野の施策に紐付けながら計画を作っていくことになると思う</p> <p>○合併前の地域性への配慮が必要かどうかの検討も必要</p> <p>○磐田市単独でなく、周辺市町と連携して進めていくという視点も大事(観光や防災など)</p> |

| 委員 | 委員意見 |
|----|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ○私が属する労働組合は、中遠地域(磐田・袋井・森)で連携して活動することが多い⇒市の施策・計画も「広域連携」の考え方が大切 ○企業(勤め先)⇔住まい(居住地)のバランス。市内に住んで、市内で働く人をいかに増やしていけるか ○グリニティイワタが改装オープンし、(海外の)富裕層の来磐が見込まれるが…。⇒滞在して、磐田のどこに行く?どこを見せる? ○磐田は多くの人が集える場所も不足していると感じる ○駅周辺(中心市街地)をどうしていくかも課題。これ次第でまちの姿が変わると思う ○企業や市民を上手に巻き込み「主体」にしていく(例:防災では「自助」が大切) |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ○当社のビジョン作りもこれまで「ギャップアプローチ(現状と目指す姿のギャップ(不具合や問題)を解消していこうという考え方)」という手法でやってきたが、近年、「ポジティブアプローチ(自分たちの「強み」を見つめ直し、そこを伸ばして生かしていく考え方)」に考え方・手法が変わってきた ⇒磐田市も、磐田市の強み、磐田らしさを活かした計画づくりを行うのが大切 ○「人」の確保は相当厳しい。「魅力」「強み」を前面に出せないと人を確保できない時代へ ○スタートアップ企業との連携、若い世代の発想の取り込みなども今後は大切 ⇒この会議(行政経営審議会)にも若い世代の人を取入れ、新しい考えを取り入れるべき ○観光:これといった観光資源がないなら、ニッチな世界で魅力を作ることに取り組みたい ⇒バイク?ペット?テーマに特化したスポットやイベントで人を集めてはどうか? ○子どもの頃から「住みやすさ」「愛着」を感じさせる取り組みも必要だと思う |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ○人口減少・若者世代流出により、企業の人材確保は全業種で厳しい状況が見込まれる ⇒外国人就業者の確保・活躍に向け、外国人も住みやすい環境づくりや、女性がさらに活躍できる環境づくりもますます重要へ ○人口減少は全国的な流れである程度致し方ないと感じるが、人口減少率をいかに抑えるか? ⇒「子育て支援」「教育の充実」「住みやすさアップ」「働きやすい環境づくり」 ○磐田は製造業だけでなく、農業も非常に盛んでもあるため、10年、30年後を見据えた都市計画、どういった地域を工業用地にするのか、どこを農業用地にするのか、どこを商業というような形で活用していくのか、農業、商業、工業、このバランスを考えた都市計画を考えていくことが重要 ○若者の活躍、特に若手経営者たちの活躍には期待したいし、そのための環境整備も大切 ○各種「目標値」の設定 ⇒その目標値を達成することで、市の理想とする姿のどういうところにつながるのか、そういった視点から考えることが必要 ⇒「縦割り」の目標づくりは見直し、指標を考えていくことが重要 |

| 委員 | 委員意見 |
|----|--|
| 委員 | <p>○人が資源。人という資源の質を上げるための取組が今後大切</p> <p>○それは、市役所の職員にも言えること。ほかの地域は、こういうことやっているとか、あるいはほかの国がこんなことやっているとか、ぜひとも、市外に出ていき、いろいろなものや情報を吸収して、それを総合計画の中に反映する、あるいは指針の政策に反映するとかをしてもらいたい</p> <p>○若い人たちやはり中学生とか高校生たちの意見を踏まえて総合計画をつくるのが大事なので、ぜひそういった年代の意見も取入れて計画策定してもらいたい</p> |